

村の賑わい（かつての国設最上川スキー場）



戸沢村の観光振興を図るために、1981(昭和 56)年 2 月にオープンした最上川スキー場。

スキー場は国有林野内に作られ、第 1 リフトと第 2 リフトを備え、樹海コースも整備されていたことから上級者から初級者までをカバーできるものでした。食堂を兼ねた休憩所もあり、子ども連れでソリ滑りを楽しむ風景も見られました。

また、ナイター照明を完備し、当時の国鉄高屋駅からも歩いて行ける手軽さもあって、村内外から大勢のお客さんが訪れました。



晴れた時には、最上川や周辺の山々を見渡すことができるのも魅力の一つでした。



汽車で手軽に行けることから村内小学生の多くが足を運び、スキーに慣れ親しました。



自然相手のため暖冬で雪が降らなかつたり、他の町でもスキー場が作られたりしたことにより、次第に会社の経営が苦しくなり閉鎖されました。

閉鎖後、災害や跡地が荒れるのを防ぐとともに、環境教育の一つとして、子ども達や地域の方々も参加しながら、ゲレンデ(滑走面)の一部にブナを植樹する取組みが行われました。